

受講者  
募集

オキナワ  
担い手未来  
in 石垣

ア-ツプロジェクトを  
実践する人たちを育てる

2024.11.23(土)-11.24(日)

募集  
人数

10  
名程度

会場:まちなか交流館ゆんたく家  
(沖縄県石垣市大川203)  
※応募書類:2024年11月4日(月)必着

沖縄アーツカウンシルでは、これからの時代の文化芸術の担い手を発掘、育成することを目的とした「オキナワ担い手未来」を2023年度より開始しました。

2024年度は、八重山地域にて2日間の集中講座を開催します。次代の担い手を対象に、それぞれの活動の推進力強化や創造活動の課題解決に役立つノウハウを文化芸術に関わる専門家による講座から学び、その学びを生かして受講生各自の課題解決戦略を考え、提案していく、沖縄文化芸術の未来を担う人材を育成するプログラムです。

詳細については裏面のQRコードよりウェブページをご確認ください▶▶▶

# オキナワ担い手未来 in 石垣

八重山地域にて2日間の集中講座を行います。各回で講師を招き、社会における文化芸術の価値の形成や、地域のなかでアートプロジェクトを展開するためのノウハウを、講義・ワークショップ・フィールドワークの形式で学びます。

最終回では受講者によるアートプロジェクトプランの構想に関する報告と、本講座の振り返りディスカッションを講師を交えて行います。

すでにクリエイティブな仕事や活動をしている方、まちづくりやプロジェクトを実施したい方、プロジェクトを一から作ってみたい方に向けて、実施していきます。

募集  
人数

10  
名程度

応募  
締切

2日間受講可能な方

2024年11月4日迄

※審査により選考された方が本講座を受講できます。  
※審査の結果により受講確定者の人数は前後します。

応募  
対象

文化芸術全般に興味がある方。現代における芸術の在り方や活用に関心がある方。アートで地域を盛り上げたい方。八重山群島在住もしくは八重山群島を拠点に活動されている方に限ります。

※性別・年齢は問いません。  
※未成年者は、保護者から本プログラムへの参加の許可をいただく必要があります。

## CHAPTER.1

2024年11月23日(土) 13:00~15:30

講師:中村 美亜

九州大学大学院芸術工学研究院教授

### 文化芸術の価値とは何か

「なぜ文化芸術は必要なのか」、世界各国で様々なアートプロジェクトが展開されていますが、それらの取り組み事例を交え多角的に読み解きながらその特徴や課題について学んでいきます。文化芸術の価値について、ワークショップを交え議論します。

## CHAPTER.2

2024年11月23日(土) 16:00~17:30

講師:八巻 真哉

アートディレクター、キュレーター

### アートプロジェクトのディレクションと運営

アーティストや地域の人々と協働し、京都府域のまち等を舞台にアートプロジェクトを展開してきたALTERNATIVE KYOTOの取り組みを例に、持続可能なアートプロジェクトのこれからの在り方や、運営体制の仕組みづくりについて考えます。

## お問い合わせ

応募資格・応募方法等、受講に関する詳細は下記サイトまたは、沖縄アーツカウンシル「オキナワ担い手未来」担当までお問い合わせください。



沖縄アーツカウンシル  
「オキナワ担い手未来」担当

TEL:098-987-0926

Mail:info-ninaite@okicul-pr.jp

<https://okicul-pr.jp/oac/topics/ninaite-ishigaki-bosyu/>

## CHAPTER.3

2024年11月24日(日) 10:00~12:00

講師:武田 力

演出家、民俗芸能アーカイバー

### 思いをオファーしてみる

社会課題は地域の未来を左右するからこそ、みんなで考え、取り組む必然性があります。ただ、社会課題は人によって取り掛かる優先順位が異なり、また、あなたが気づけていない課題もあるでしょう。そこで試しに、講座前半での武田の活動紹介を踏まえ、あなたの思う石垣島の社会課題に対処するためのオファーを武田にください。もちろん嘘/演劇として、です。そこでのやり取りは参加者個々が抱く石垣島の価値や豊かさに、どうアートで関与できるのかのアイデアそのものです。演劇で遊びながら、軽やかに社会課題を共有してみましょう。

## CHAPTER.4

2024年11月24日(日) 13:00~16:30

講師:石川 竜一

写真家

### 新たな目線で街を見つめる

アーティストとともに石垣市内のまちなかをフィールドワークし、アートプロジェクトや作品プランを組み立てていくためのヒントやまちの課題、新たな魅力に対して視野を広げ、参加者同士の意見交換を行います。

## CHAPTER.5

2024年11月24日(日) 17:00~18:00

講師:石川 竜一、武田 力

写真家

演出家、民俗芸能アーカイバー

### 地域に根ざした文化・芸術活動の可能性

2日間の講義・ワークショップ・フィールドワークなどさまざまな学びを得ながら、自身が今後取り組んでいきたいアートプロジェクトの構想を練ってきました。最終回では、受講者によるアートプロジェクトプランの構想に関する報告と、本講座の振り返りディスカッションを講師を交えて行います。

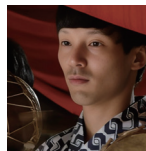
## 講師Profile



九州大学大学院  
芸術工学研究院教授  
中村 美亜  
Mia Nakamura

専門は文化政策・アートマネジメント研究。芸術が人や社会に変化をもたらすプロセスや仕組みに関する研究、またそれを踏まえたケア、社会包摂、評価に関する研究を学際的・実践的に行っている。

訳書に『文化芸術の価値とは何か一人や社会にもたらす変化とその評価』(水曜社、2022年)、編著に『文化事業の評価ハンドブックー新たな価値を社会にひらく』(水曜社、2021年)、『ソーシャルアートラバーー地域と社会をひらく』(水曜社、2018年)、単著に『音楽をひらくーアート・ケア・文化のトリロジー』(水声社、2013年)など。日本文化政策学会、アートミーツケア学会理事。日本評価学会認定評価士。



演出家  
民俗芸能アーカイバー  
武田 力  
Riki Takeda

大学の教育学科を卒業後、幼稚園勤務を経て演劇を始める。劇場の外で多くの演出を手掛け、『警察からの説教』『たこ焼き』『小学校の教科書』など日常の物事を用い、この社会を観客と一緒に思索する作品を展開する。また、滋賀県朽木古屋の六斎念仏踊りや福岡県八女市の八女茶山唄など、山間集落での暮らしに脈々と継がれてきた民俗芸能の復活や継承に携わる。「ソトモノ」として民俗芸能の現代的価値を見出し、アートを用いてどう後世へと繋げるかを現地と協働しながら展開している。近年は東京都現代美術館で展示を行うなど、活動は多岐にわたる。横浜市芸術文化振興財団2016、17年度フェロー。2019年度国際交流基金アジアフェロー。



写真家  
石川 竜一  
Ryuichi Ishikawa

沖縄国際大学社会文化学科学卒業。在学中に写真と出会う。2014年に沖縄の人々や身近な環境で撮影したスナップを纏めた『okinawan portraits 2010-2012』『絶景のポリフォニー』を発表し、木村伊兵衛賞、日本写真協会新人賞、沖縄タイムス芸術選奨奨励賞を受賞。日常のスナップやポートレイトを中心に現代の矛盾と混沌に向き合いつつも、そこから光を探るような作品を発表し、活動の場を日本国内外に広げ、その内容もビデオ作品や他ジャンルのアーティストとの共作、ミュージシャンとのセッションなど多岐にわたる。



アートディレクター  
キュレーター  
八巻 真哉  
Shinya Yamaki

インディペンデントでアートディレクションやキュレーションを行う。前職では京都府文化スポーツ部文化スポーツ芸術課に所属し、地域文化振興担当として、京都府域展開アートプロジェクト事業や京都府地域文化創造促進事業などのプログラムディレクターを務める。京都府域展開アートプロジェクト事業では、地域文化と先端技術を組み合わせたデジタルアートによる空間演出や、地域文化資源発信型のアーティスト・イン・レジデンスを活用した現代アート作品展示を通じて、地域の文化資源の魅力を引き立て、国内外へ発信した。